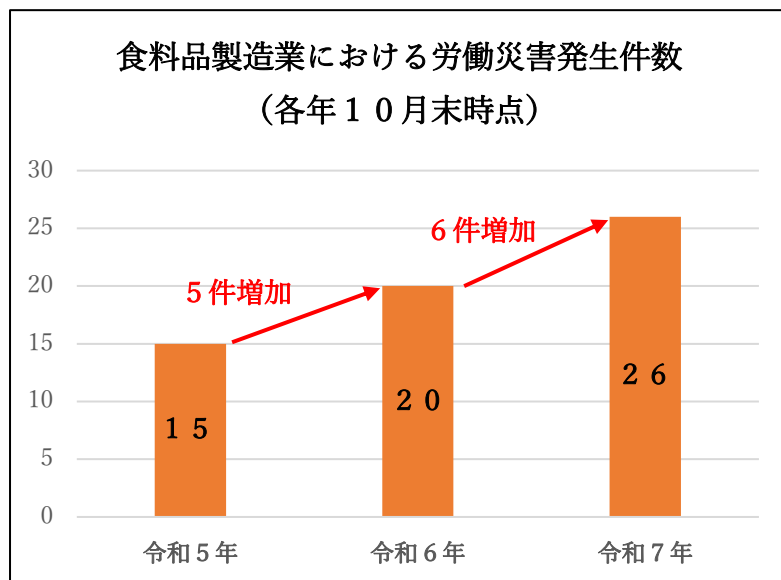


食料品製造業の労働災害が増加しています

1 当署管内の食料品製造業における労働災害発生状況



食料品製造業における労働災害の発生状況(10月末時点)は、左図のとおりであり、この2年間で1.7倍近く増加しております。

労働災害の事故の型は、「転倒」が圧倒的に多く、続いて「機械へのはさまれ・巻き込まれ」、「動作の反動・無理な動作(いわゆる腰痛)」が発生しており、労働災害の減少に向けては、

①転倒防止

②はさまれ・巻き込まれ防止

③腰痛防止

に対する取り組みが重要となります。

2 転倒防止

整理・整頓の徹底や段差・滑り面の改善のほか、ストレッチ体操や体力測定などソフト面からも転倒災害防止に取り組んでください。

※参考 転倒災害のない職場 HIROSHIMA プラン



3 機械へのはさまれ・巻き込まれ防止

機械の掃除・修理・調整などの作業において、**機械の運転を停止しないまま**作業を行ったため、運転中の機械にはさまれ又は巻き込まれて負傷する災害が多発しております。

機械の「**運転停止**」を単に口頭で促すだけでは、作業者がいざという時に「**運転停止**」を行うことは困難です。

「作業標準(作業手順)」において、「**運転停止**」に関するルール作りをしていただき、そのルールを作業者に順守するよう作業指示・指導を行ってください。



(注) イラストの出典元：職場のあんぜんサイト

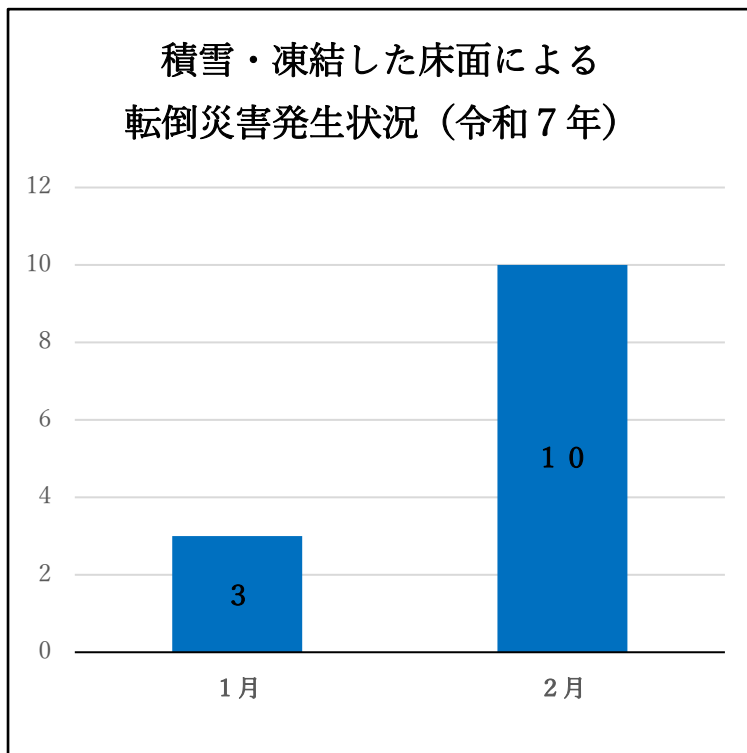
4 腰痛防止

腰痛の発生要因は、①動的要因(重量物を持ち上げる、腰を深く曲げる、長時間同じ姿勢で仕事)、②環境要因(寒冷、振動、作業場所が狭隘)、③個人的要因(年齢、性別、体格)が挙げられます。

作業姿勢や腰のストレッチなど、発生要因に対する効果的な取り組みを図ってください。

積雪・凍結による転倒災害にご注意ください！

1 積雪・凍結した床面による転倒(滑り)災害の発生状況



今年の年始は広島市の中心部でも積雪が認められ、最低気温が氷点下を下回る日が続きました。

このため、山県郡以南の地域においても積雪・凍結による転倒リスクが高い状態が続きました。

その結果、今年1月と2月において「積雪・凍結した床面による転倒(滑り)災害」が多発しました。

気象予報によると、夏場の厳しい暑さから一転して、今年の冬季も厳しい寒さとなる見込みであり、年末年始に向けて積雪・凍結による転倒災害防止の取り組みが急務となります。

2 冬季に合わせた転倒防止対策の実施

・滑りにくい履物の使用

革靴やハイヒールは危険ですので、滑りにくい靴を選びましょう。

・積雪・凍結箇所の注意喚起

マンホールや金属製のグレーチングの上、車の出入りがある箇所は特に滑りやすくなります。

転倒危険箇所を事前に把握し、関係労働者に周知してください。

・転倒しにくい歩き方

①急がず焦らず、②小さな歩幅で、③歩くときは両手を空けて、④靴の裏全体を着けて歩く

・安全通路等の確保

①雪で段差や障害物が隠れる場合には、ポールやコーンを設置して注意喚起

②建物入口に雪や水分除去のマット設置

③屋外の通路の除雪や凍結防止剤の散布

などの措置により、関係労働者が安全に歩行できる通路を確保してください。



（注）イラストの出典元：職場のあんぜんサイト